

## 教職課程センター・地域学校教育センター

## 特集 明海大学あけみ英語村

## 明海大学・足立区連携事業

## 明海大学あけみ英語村 内外から高評価！



11月2日(木)に足立区立西新井小学校5年生児童87名及び同校の先生並びに学校関係者等10名が、学習体験型遠足として本学を訪問しました。この事業は2017年1月に本学と足立区との間で結ばれた連携事業の一つとして本学から提案された企画で、実施に当たっては教員及び職員からの全面的なサポートのおかげで成功へと導くことができました。

爽やかな秋晴れの朝、小学生たちが次々にバスから降りてきます。出迎えの学生たちとハイタッチはするものの、表情はまだ硬いままで。小学校での事前指導では英語を使うことに不安を抱いていた児童も多かったとのことですから、この

時点での緊張は当然のことと言えます。

ところがアイスブレイキングでひとたび留学生との交流が始まるや否や、体育館中に活気ある声が響き笑顔がはじけました。しばらく体を動かしてからの「自己紹介タイム」では、また元の恥ずかしがり屋に戻った児童もいましたが、各グループに配置された教職課程を履修している学生たちが上手に交流の輪を広げてくれました。その後の屋外でのランチタイムでは、大学生とすっかり打ち解け手をつないで離さない児童もいました。

お弁当をあっという間に平らげた子どもたちは「早く遊ぼう！」と言いたいのでしょうか、「英語では何て言えばいいのだろう？」という戸惑いもあるようでした。そこで発揮されたのは、異文化の中で生活する留学生の見事なコミュニケーション力です。企画以上の成果が、次々に生まれていきました。

“Happy?”の問いかけに、大学生も小学生も声を合わせて、“HAPPY!!”と応え走り去って行く。この夢のような光景を支えてくれたのは、明海大学自慢の青々とした弾力のある芝生でした。



当日の様子は、朝日新聞・読売新聞・産経新聞にも大きく取り上げられ、高い評価を受けました。

## ネイティブ授業・各国遊び・絵本読み聞かせ

### 「大学の先生と英語で話せた！」

MPPECの先生方をお手伝いして色紙で七面鳥を作る活動を行いました。始めは英語での説明に戸惑う小学生もいましたが、パトリック先生、タイソン先生の図形を表す説明を聞き、楽しく工作していました。教員を目指す学生として、実際にALTとのチームティーチングを早々と体験できたことは、私たちにとっても大きな収穫でした。



(英米語学科  
3年 内山  
葉月・脇山  
清美)

### 「パキスタンの遊び。衣装も素敵！」



4つのエリア  
(東アジア、東南アジア、中央アジア、ユーロ圏)の中の7カ国(中国と韓国、フィリピンとマ

レーシア、ウズベキスタンとパキスタン、そしてギリシア)の遊びをそれぞれの国から来た留学生が紹介し、小学生と一緒に遊びを楽しみました。小学生は走り回ったりボールを投げたり羽を蹴ったりして英語を交えながら留学生と交流し、多種多様な遊びを満喫していました。留学生にとっても母国の伝統的な遊びを調べたり、練習したりする機会になりました。

(担当 金子義隆)

### 「日本語のフーツ！は英語で Swoosh!って言うんだよ！」

私は、今回自国の文化と他国の文化を使って日本の可愛い小学生と交流することが出来ました。大抵の日本人は英語が嫌いで複雑な言語だと感じていると思いますが、私たちが絵本”Three Little Pigs”を読むことによって、英語は楽しい言語であることを教えることが出来ました。例えば、小学生に合わせたレベルの英語を使い、できるだけジェスチャーや表情豊かに楽しくしようと努力しました。同時に英語が簡単でおしゃれなものだと感じてもらえるようにしました。私たちにとって貴重な経験になりました。ただ本を読むことは簡単ですが、相手に理解させることが重要であることを学びました。(HT 学部2年 Sabina Rai)



### Mimiyori

あけみ英語村特集の最後に小学生の校歌斉唱について触れます。歌声は美しいというよりも、ただただ純粹。教育関係者ならずとも、または親心があろうがなかろうが、感動の瞬間です。最後部の席で行事終了の満足感に浸っていた私の視野は教育実習を終えた4年生たちの背中をとらえていました。彼ら彼女らが実習の感動を語っていた顔を思い出し、「今、泣いているかも・・・」と想像したら、こらえていた涙が一気にあふれだしました。学校種は変われども、教師の心を潤わせるのは教え子たちへの愛情です。(担当：百瀬)